

目指す学校像	あいさつと笑顔があふれる、信頼と潤いのある学校
--------	-------------------------

重点目標	1 学ぶ喜びのある生き生きとした学校 2 安全で落ち着いたきのある美しい学校 3 家庭や地域とこころが通い合う学校 4 教職員が子どもや家庭、地域から信頼される学校
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果をみると、どの教科も全国・市の平均正答率と同程度の平均正答率であり、概ね良好である。 ○落ち着いた学習に取り組み、しっかりと話を聴いて授業に取り組むことができる。 ○令和5年度学校評価「学ぶ喜びのある学校づくり」の保護者の肯定的評価は96%と高い数値であった。 (課題) ○令和5年度市学習状況調査において、3年生から5年生の「言葉の特徴や使い方」が市の平均正答率より2P程度下回った。算数の「データ活用」で3P、領域「数と計算」において2P下回った。	・個別最適な学びや協働的な学びを軸とした主体的な学びの展開 ・教育DXを展開するために、児童の積極的な端末利用が可能な授業の実践	①「学びのじ・し・や・く」に示された授業実践を行い、学習に対して自走できる児童を育成する。 ②自分の学力をデータで確認できるよう、スクールダッシュボードを活用した学びの振り返りを行う。	①学びの指標「主体的な学び」の学校平均数値が3.0を超えたか。 ②市学習状況調査(生活習慣)「これまでの授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていたか」の数値が90%以上になったか	①学びの指標は3.44であった。各学級において主体的な学習活動を実践していることは授業参観で確認できた。 ②市学習状況調査が未達のため、昨年度の市学調の生活調査の質問をもとにした調査を12月に実施した結果、95%の児童が肯定的回答であった。	A	児童の意識が、教師が提供する授業を自分に必要なものと認識されているので、この意識を次年度も継続させる必要がある。主体的な学びの実践こそがポイントであると分析できるため、確実な実践のための研修を行う。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 ・教育DX化が進んでおり、児童の自己肯定感が高いことも素晴らしいと感じる。 ・児童の習熟度合いを確認するために教師が尽力していることがよくわかる。 ・ICTの活用は避けて通れないが、デジタルとアナログの両方を活用する意識を大切にしたい。 ・現代の学校教育について家庭への情報発信をPTAでも協力できるのではと感じた。
2	(現状) ○令和5年度の学校評価「安全で落ち着いたきのある学校づくり」に対する保護者の肯定的評価が96%、「安全、保健指導」に対する肯定的評価が98%と高い評価を得ている。 ○令和5年度市学力学習状況調査(生活調査)「いじめはいけないこと」の肯定的回答は市の平均を超えた。 (課題) ○長欠児童がおり、保護者との連絡がなかなかつながらない家庭がある。 ○配慮を要する児童への組織的な対応が必要である。	・児童一人ひとりを大切にしたい心のサポート体制の構築 ・事故を未然に防ぐ安全な学校づくり	①年度当初に、全教職員で共通理解・共通行動をとれるようにするため、保健面と行動面について、児童理解研修を実施する。 ②対応の難しい児童に対しては、積極的にケース会議を実施し、組織的な対応をする。 ③迅速な対応を徹底するため、「心と生活のアンケート」を確実に実施し、必要に応じて保護者や第三者機関と連携を取る。	①児童理解研修(保健、児童理解行動面)を実施し、児童の情報を共有することができたか。 ②対応の難しい児童に対して、ケース会議を開催できたか。 ③生徒指導委員会や教育相談委員会において資料を活用し効率的な運営が実施できていたか。 ④毎学期の心と生活のアンケートの報告が開始後1か月以内に管理職に報告できたか。	①児童理解研修は5月に実施し、前年度からの申し送り事項と今年度の児童の様子や配慮事項について確認した ②組織的に対応が必要な事案についてケース会議を15件行った。 ③月1回開催の各委員会に置いて、紙での資料を活用し実施した。記録はデータベース化されている。 ④1学期4/26、2学期9/27、3学期1/29に報告された。	A	いじめの重大事態や命の危険に関わる重大事案が起きず、トラブルも小さい状況で防ぐことができた。不登校状況の児童へのサポートは引き続き必要であり、どんな形でも登校を受け入れることができる環境整備を行う必要がある。	・不登校児童への対応についてSolaの一むの取組や定期的な部分登校や個別面談等が行われていることがわかった。 ・思いやりの心を学校だけでなく地域や家庭でも育てる必要性を感じた。 ・登下校の安全確保のための見守りなどの大人の人材確保が課題だと考えられる。
3	(現状) ○地域全体で児童を育成するために学校・地域・保護者がそれぞれの立場で何ができるのか、学校運営協議会の会議や熟議を通して、「地域と共に歩む」土合小学校を推進している。 ○学校評価「家庭や地域と心が通い合う学校づくり」に対する肯定的評価は94%と高い数値であった。 (課題) ○地域に参画する意識については、令和5年度市学習状況調査生活調査「地域行事参画」の結果から見ると、市平均より1OP程度低い。	・学校運営協議会を中心とした、地域との連携強化 ・社会に開かれた教育課程を実践する教育活動の発信	①学校運営協議会を3回開催し、学校・地域・保護者がそれぞれの立場で何ができるのか実効性のある熟議を実施する。 ②SSNでは、保護者、地域との連携を強化して、児童の活動充実や安全のために、必要なボランティアの募集を行う。	①学校運営協議会を3回実施したか。 ②学校評価「家庭や地域と心が通い合う学校づくり」の肯定的評価90%以上の維持 ③学校評価「保護者や地域からの願いに込めているか」の肯定的評価90%以上の維持	①6/24、10/21、2/12の日程で行った。 ②肯定的評価は95%であった。 ③肯定的評価は96%であった。	A	児童の地域行事参加の意識が昨年度より10P向上している点から、児童の参加を呼び掛ける必要がある。児童や社会や地域のために何かしたいと感じていることもわかったので、そういった思いを具現化できる環境整備も必要である。	・地域活動への児童の参加率は引き続き今年度の状況を継続させていきたい。 ・地域活動については地域の方々を支えられているが、保護者の参加がなく、地域への関心が薄まっている傾向にある。 ・地域行事に児童が主体的に参加できる場を提供できるとよいと考える。
4	(現状) ○学校評価「基礎学力を身に付けさせる指導」については保護者の肯定的評価96%「自分の考えをもち、自分のことばで正しく表現する力の指導」の肯定的評価は92%であった。 ○令和5年度市学習状況調査生活調査項目「先生に質問することができるか」では80~88%と高評価であった。 (課題) ○高学年の教科担任制が完全には実施できていない。	・令和の日本型学校教育を実践するための教職員による主体的な研修の実施	①校長、教頭、教務主任が全教職員の授業実践を参観し、指導助言を行う。 ②他校の教科担任制の実践について検証し、本校の工夫・改善点をまとめ、次年度の案を決定する。 ③全国教員研修プラットフォームを活用した研修奨励を行い、個々の教職員が自らの課題を意識した授業研究を年間3本以上実施する。	①学校評価「基礎学力を身に付けさせる指導」に関する肯定的評価90%以上の維持 ②教科担任制について、今年度の検証を行い、工夫改善点を話し合い、次年度の計画案を作成できたか。 ③授業研究を3本以上実施できたか	①肯定的評価は91%であった。 ②2学期から第5学年で教科担任制を実施し、それをもとに令和7年度の計画を作成できた。 ③初任者研修、中堅教諭等資質向上研修にて5本、校内研修にて1本行った。指導訪問では4教科・領域にて行った。	A	児童の学習に対する意欲は高いことがわかったので、その意欲を継続させる必要がある。また、教職員の授業研究も協働して取り組むことによって互いの力量を高めることができるので、そのよさを児童の学力に結ぶ授業研究が必要である。	・教科担任制については、児童理解の深まりや、児童へのかかわりなどで期待が持てるものだと感じる。児童への刺激を与えるという点でもよいのではと感じた。 ・中学校との連携も必要なのはと感じた。